

山家地区コミュニティ まちづくりワークショップニュース

まちづくりの目標を考える！！

筑紫野市は、平成21年3月に「地域コミュニティ基本構想」をまとめ、小学校区を基本単位とするまちづくりを進めており、平成22年5月から山家地区において、市内のコミュニティ形成のモデル地区として話し合いを行ってきました。

平成23年1月27日(木)に山家コミュニティセンターにおいて、まちづくりワークショップ(まちづくり報告会・討論会)を開催しました。まず、これまでの山家のコミュニティ形成に向けた経過報告を行いました。次に、山家のまちづくりの目標をワークショップ形式で議論しました。「自然環境の保全」「生活の移動手段の確保」「医療サポート」「山家の魅力・資源の活用」などが多く選ばれました。

最後に、コミュニティ運営協議会の体制と規約を検討する「準備会」の経過報告を行いました。

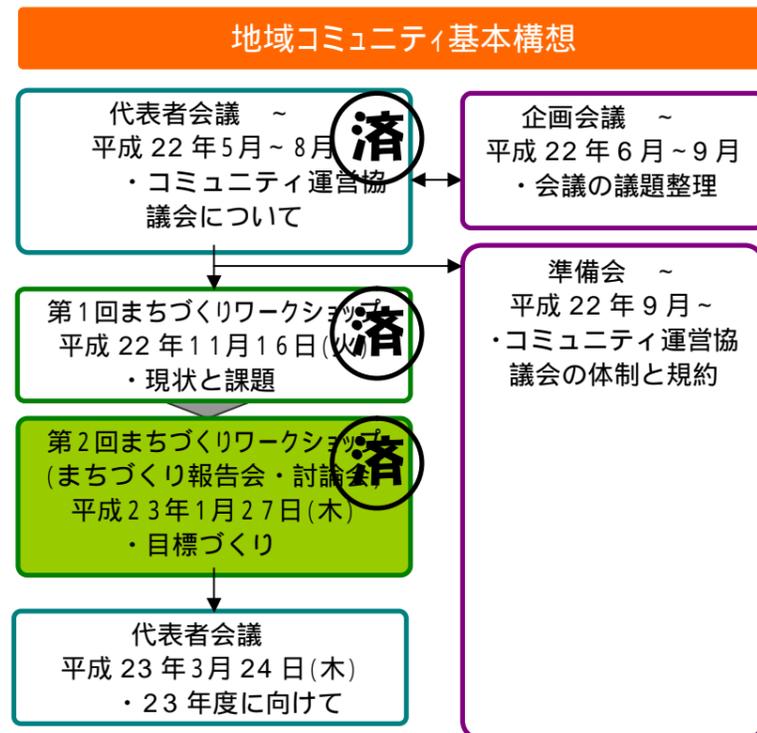


ワークショップとは
様々な立場の人が集まり、対話と共同作業を通して総意を形成する参加型の会議手法です。

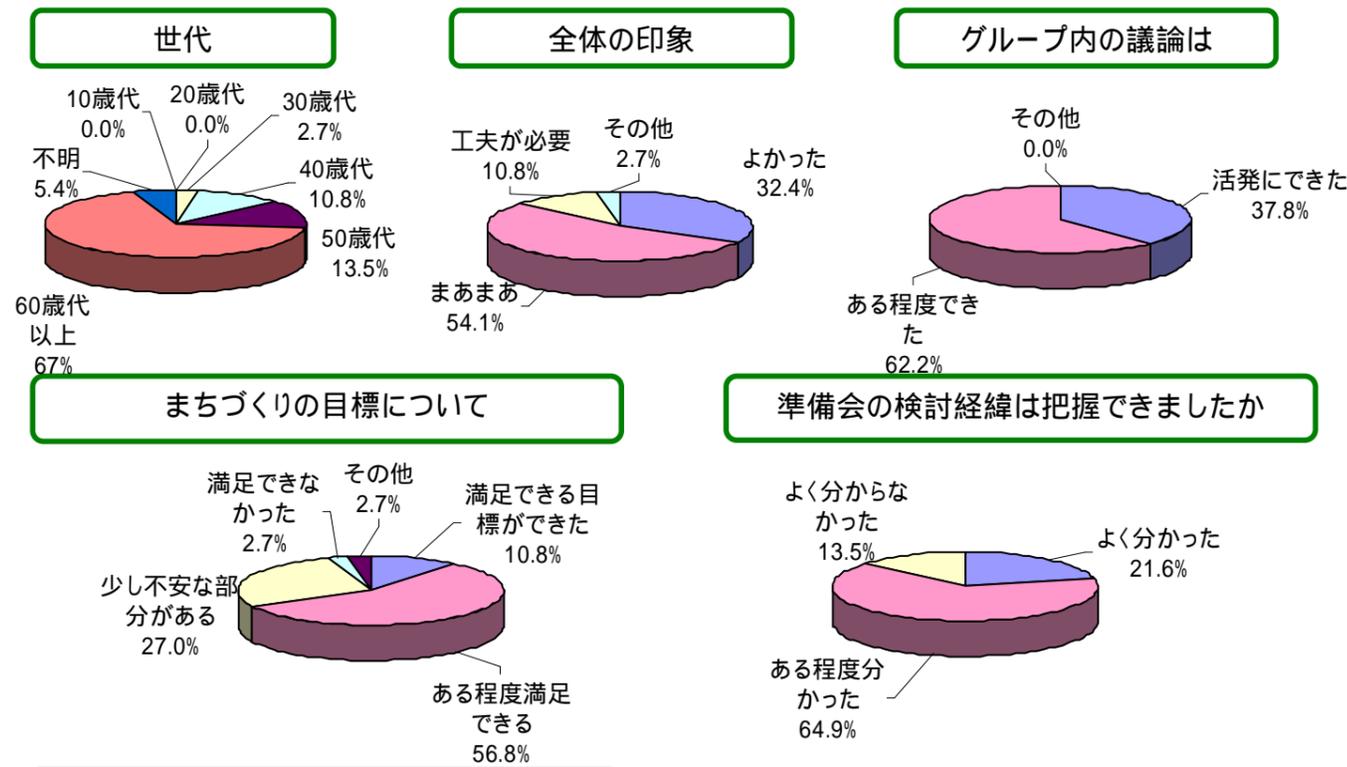
プログラム

- 開会
- 【第1部 まちづくりワークショップ】
 - これまでの検討経過
 - プログラム説明
 - 参加者紹介
 - 前回の振り返り
 - 目標づくり
 - 課題の共有
 - 将来像を設定
 - まとめ
- 【第2部 コミュニティ運営協議会の検討状況】
 - 準備会の経緯
- 閉会

全体構成



参加者アンケート結果： 回答数 37名



自由意見

- ・目的が何なのかわからない。体制作りには意見は出せるのか？
- ・各役員の選出方法はどうか？
- ・山家開発委員会が準備会に入っていないのは、問題、検討して欲しいと思います。
- ・山家財産区は独立。山家に財産を管理する団体が2つ必要なのか？
- ・会議の時間を土曜日の午後からにして欲しい。夜は出席しにくい。
- ・来場者数が少ないので今後は多くの人に参加できるように工夫が必要だと思います。
- ・参加者をもっと増員して班を増やした方がもっと意見が出て内容が理解してもらえると嬉しいです。
- ・いつも与えられた事で作業するが、それぞれの立場の意見要望を聞く方がよいと思います。
- ・グループワークだけでなく全体の意見交流の場が必要ではないかと思っています。
- ・区の状況がちがうので、全体をまとめることが難しいと思います。
- ・前半の説明が長いと思います。
- ・山家区民の意見を下迄おろして欲しいと思います。
- ・今後、地元住民への徹底周知方法はどうか？(3月31日まで)
- ・住民の意識調査結果をフィードバックして欲しいと思います。
- ・カードを仲間分けしながら目標へまで高める取り組みが行われたが、途中までしか行われなかった。準備会や講師の先生方などでまとめ上げられると思いますが、準備会に出席しなかった者としては、途中までで終わって消化不良です。決められたことがあたかも自分か決めたかのように思うことがないように工夫して欲しいです。

お問い合わせ先

筑紫野市役所 総務部まちづくり支援課 担当 (平田、牛島)
TEL (092) 923-1111 FAX (092) 929-0481

山家のまちづくりの目標づくり

今回は、山家のまちづくりの目標を探りました。

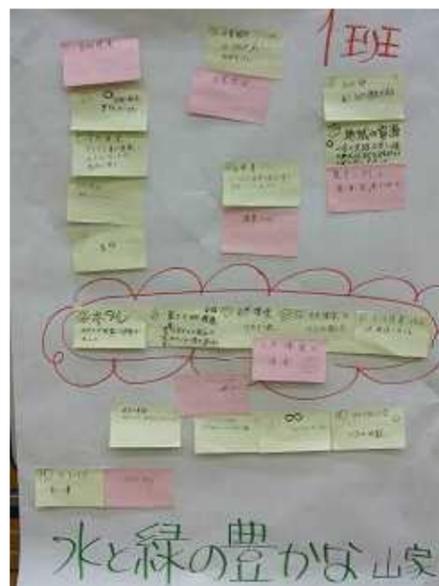
まず、前回のワークショップの話し合いの結果と住民アンケートの回答から24の課題（課題シート）を作成し、その中から「気になる課題、重要と思う課題」を各自3つ選びました。そして、その課題を選んだ理由をグループ内で話し合い、同じものをまとめて、それぞれタイトルをつけました。最後に、山家のまちづくりのイメージを示す言葉をまとめました。

一番多く選ばれた課題は、

「豊かな自然環境を適正に維持管理し、保全すべきだ」であり、次いで、「地域の交通機関として、コミュニティバスの運行を検討すべきだ」「自然、文化財、歴史などの地域の資源や特産品を活用し、観光の振興に力を入れるべきだ」に意見が集まりました。

山家のまちづくりのイメージ

- 1班：水と緑の豊かな山家
- 2班：豊かな自然と歴史が人を育てる山家
- 3班：自然を守れば山家が栄える
- 4班：住民が笑顔で暮らせる山家
- 5班：安全安心住みよい山家
- 6班：山家に産業（道の駅）を興し、生活（買物、交通）を改善し、雇用促進、コミュニティを図る
- 7班：自然が生み出す命水（めいすい）のまち



24の課題（課題シート）			
1. 豊かな自然環境を適正に維持管理し、保全すべきだ	2. 山家の地区の資源として、ホテルの生態・生育空間の保全すべきだ	3. 産業廃棄物等の不法投棄の防止に取り組むべきだ	4. ごみの減量化分別、リサイクルなどを進め、環境にやさしい循環型社会を築めるべきだ
5. 道路の整備、公共交通の利便性を高め、誰もが安全で快適に出かけられるようにすべきだ	6. 地域の交通機関として、コミュニティバスの運行を検討すべきだ	7. 下水道や浄化槽などの生活排水対策を進め、快適な生活環境を充実すべきだ	8. 高齢サポート体制を充実させ、健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組むべきだ
9. 日用品をそろえることができる買物環境を整備すべきだ	10. 交通事故や犯罪を防止するための施設整備、活動を活性化し、安心して暮らせるようにすべきだ	11. 消防団や自主防災組織などの防災体制を充実させ、さまざまな災害に対応すべきだ	12. 企業誘致や新たな産業の創出など、多くの人が働ける場を創り出すべきだ
13. 移動販売など充実させ、移動が困難で日々の買物に困る人を支援するべきだ	14. 農産物の産後の育成、産後のブランド化などを進め、農業を振興すべきだ	15. 自然、文化財、歴史などの地域の資源や特産品を活用し、観光の振興に力を入れるべきだ	16. 子どもから高齢者まで、誰もが気軽にスポーツや文化に親しむ場や機会を充実すべきだ
17. 学校・地域・家庭が連携して、子ども達の豊かな心を育む教育を進めるべきだ	18. 幼稚園や保育園を充実させ、安心して子育てできる環境づくりを進めるべきだ	19. 高齢者や障がい者への福祉サービスを充実させ、生きがいをもって暮らせる取り組みを進めるべきだ	20. 見守りや見回りの活動を充実させ、安心して暮らせる取り組みを進めるべきだ
21. 体力の維持増進、病気の予防のため、心身の健康づくりの取り組みを進めるべきだ	22. 行政区や小学校区内での交流や活動を活発化し、地域のつながりを強化するべきだ	23. ボランティアの活動を活性化し、みんなで住みよいまちづくりに取り組むべきだ	24. 体験型農園など都市部の人たちの交流を進めるべきだ
25.			

